

～ 昨日の風 明日の風 ～

# 経営コンサルタント 独白録

[第130回] セルフリセットの時代



戸敷 進一

1956年生まれ、宮崎県出身の経営コンサルタントで、総経営改善支援センター（福岡市、URL: <https://sien.co.jp/>）代表取締役。業種を問わない「組織活性化」の専門家として、全国300社以上の企業の活性化を指導。全国の商工会議所や企業などからの依頼で講演活動もおこなう。明確で分かりやすい表現で驚くほど短期間で「組織」を変えるのが強み。また、帝国データバンクの契約コンサルタントとして九州各地の企業を中心に多くの実績を上げている。

今から200年前、1820年の世界人口は約10億人で、100年前の1920年は約19億人でした。そして現在の世界人口は81億2000万人です。1820年は日本は江戸時代であり、1920年は大正時代です。

こうした大きな単位で時間や社会を俯瞰すると、現在と言う時代がどれだけ大きな変化の波に晒されているかがわかるかもしれません。たかが50年前ですら、世の中にコンビニエンスストアはなく、スマートフォンもパソコンもなく、ドローンも電気自動車もSFの世界に過ぎませんでした。

## グレートリセットの虚実

グレートリセット（Great Reset）とは、2020年6月に開催された世界経済フォーラム（WEF）の第50回年次総会の名称です。世界的な気候変動、パンデミック、エネルギー対策などについて全世界的な規模で行うべきであるという考え方の総称でもあります。例えば「持続可能な社会の実現」というフレーズを使いSDGsという取り組みを推進しようとしています。

もっとも世界経済フォーラムと言う組織は民間の営利団体であり、世界的な経営者や金融資本家が次の「利権」を画策する場所でもあります。根底にあるのは17世紀以来のアングロサクソン系の搾取と支配の継続という思惑が潜んでいます。テレビや新聞でSDGsのことを熱心に扱っているのは世界の中で日本だけです。簡単に「利権」に転ぶ日本のメディアだけが念仏のように「綺麗事」を唱えています。

## セルフリセットが最優先

グローバルサウスとは、インドやブラジル、タイ、南アフリカのような、南半球に位置するアジアやアフリカ、中南米地域の新興国・途上国の総称ですが、すでに先進諸国（G7）のGDPを追い抜いています。石油の決済は「ペトロダラー」という仕組みで必ず米ドルで支払う必要がありましたが、グローバルサウスの国々では中国の「元」による決済がすでに始まり急速なドル離れが始まっています。同時に、中国や中東の国々は一斉に米国債を手放していると言う情報は日本ではあ

まり知られていません。ましてや、世界がドル離れを起こしている時に、日本だけがせっせと米国債を買わされていると言う現実も知られていません。実は世界は急速に変化しています。

100年に1度の変革の時代を迎えて我々が本気で考え行動しなければならないことば、まず自ら変革（セルフリセット）することです。

## 情報に踊らされない

「売上げが伸びない」「人手不足で困っている」「売れる商品が見つからない」…。こうした目の前の課題に悩まされる経営者は少なくありません。経営を行っている以上、そうした直面する課題に真っ先に取り組まなければならない事は当たり前のことです。しかしそれ以前に自分たちの所属する組織を変革させなければ、企業の存続は難しい時代です。

メディアが垂れ流す「綺麗事」がいかに欺瞞に満ちているかは、ロシアvsウクライナ、イスラエルvsアラブ諸国、EV自動車や環境問題のダブルスタンダードを見れば明らかです。そうした誤った情報に惑わされることなく、まず自ら足元を固める必要があります。

## セルフリセットの覚悟

変革には痛みが伴います。頑強な身体を作るためには、適切な栄養と運動と休養が必要です。誘惑の多い現代社会ではこの当たり前のことですら強固な意識がなければ達成できません。浮ついたTVCMに踊らされ深夜までYouTubeを眺める生活からは頑強な肉体も精神も生まれません。

セルフリセットを行うためには組織で何らかの全社を巻き込んだ「プロジェクト」を開始することです。プロジェクトとは「誰が、いつまでに、どういう目的で、どのような方法で、いくらのコストをかけて成果を出すか」という取り組みです。最大の特徴はいつまでにという期間が決まっていることです。5S活動であれ新商品開発であれ全社を巻き込めば社員の意識は必ず変化します。

そしてそのスタートは経営者の明確な危機意識とセルフリセットの覚悟です。